

2017年9月17日

福音書からのメッセージ

イエスは言われた。「あなたにしておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。（マタイによる福音書 18 章 22 節）

弟子の一人、ペトロはイエス様に尋ねます。「兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか」。そして続けて、「七回までですか」と聞きます。きっと七回という数は、ペトロにとって思い切り頑張った数だったでしょう。

しかしイエス様は、それ以上の答えをペトロに返します。「七の七十倍までも赦しなさい」。イエス様は、限界のない赦しを求めておられます。そんな無茶な、と思うかもしれません。そしてイエス様は続けてあるたとえを語られました。

一人の家来がある王様に、1万タラントンの借金をしていました。その返済を求められて、家来は王様に泣きつきます。しきりに願う家来を王様は憐れに思い、彼を赦し、借金を帳消しにしてあげます。しかしこの借金を帳消しにしてもらった家来ですが、外に出て、自分に対し100デナリオンの借金をしている仲間に出会います。そこで彼、ついさきほど借金を帳消しにしてもらった彼は、仲間の首を絞め、借金を返すように迫ります。そして仲間を牢に入れるのです。

酷い話です。自分が赦されたのなら、他人だって赦しましょうと思うのが普通でしょう。でも当時の人にしたら、この話は「ありえない」物語でした。

1万タラントン、100デナリオン、二つの金額がでてきます。この二つの額には、実は比較することができないほどの差があるのです。まずデナリオンですが、だいたい労働者の一日の日当に相当していたそうです。だいたい1万円として考えていきたいと思います。すると借金を帳消しに



してもらった男が、どうしても赦せなかった仲間の借金である100デナリオンは、だいたい100万円となります。決して安い額ではありません。100万円の借金を簡単に赦してあげる方が不自然でしょう。

次にタラントンです。1タラントンは6000デナリオンに相当します。つまり1タラントンが6000日の日当分、16年5か月分の日当です。したがって1万タラントンは、16年以上の日当に相当するのです。1デナリオンを1万円とすると1万タラントンは6000億円ということになります。日常生活からあまりにかけ離れた額です。100万円の借金をなかなか返してもらえないのを赦せない。これはよくわかります。でも6000億円を帳消しにしてもらった。ここがピンとこないのです。

この物語は、わたしたちの物語でもあります。わたしたちは神さまに、罪を赦されました。1万タラントンの借金、この借金という語には「罪」という意味もあるそうです。その1万タラントン分の罪を、神さまは赦されたのです。わたしたちがその分、何かをしたわけではない。返す当てがあるわけでもないのです。

でも神さまはわたしたちを憐れに思って、わたしたちを赦し、その借金を、罪を帳消しにしてくださいました。まったく一方的に、このことはなされたのです。では赦されたわたしたちは、どのように歩んでいくべきでしょうか。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>